

みゅーじあむ・船橋

令和7年3月

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ・船橋
Vol.24



第24号

博物館ニュース	[2]
飛ノ台史跡公園博物館の出前授業 ～縄文土器の鑑賞～	[3]
船橋の明治・大正・昭和 船橋の防空壕	[4-5]
くらしの道具紹介 ～ちょっと昔の冬支度～	[6-7]
インフォメーション	[8]

博物館ニュース

郷土資料館

企画展「新京成電鉄の風景」



北習志野駅付近
(昭和38年 撮影：塚本芳巳)

本展示では、新京成電鉄のあゆみや沿線地域の変遷を、当館の所蔵する写真や、過去の企画展で使用したパネル、国土地理院の公開している空中写真等により紹介しました。期間中は沿線に住む人や鉄道ファンなどが多数来場され、新京成電鉄へ思いをはせる人たちで賑わいました。

なお、ご好評をいただいたため、展示期間終了後には3月30日まで、3階ギャラリーにて、資料の一部を引き続き展示しました。

郷土資料館では、令和6年12月1日から28日までの期間で企画展「新京成電鉄の風景」を開催し、会期中24日間で2,234名の方々にご来場いただきました。

新京成電鉄は旧陸軍鉄道連隊演習線を利用した鉄道事業を行うため、昭和21(1946)年に設立し、翌年に最初の営業区間である新津田沼(初代)～葉園台間2.5kmを開業しました。以降、京成津田沼～松戸間まで延伸し、70年以上にわたり運行してきましたが、令和7(2025)年4月1日をもって京成電鉄に吸収合併され、解散することになりました。



飛ノ台史跡公園博物館

企画展「縄文と弥生 —船橋の縄文晩期と弥生時代—」

飛ノ台史跡公園博物館では、令和6年11月9日から令和7年2月2日まで、企画展「縄文と弥生—船橋の縄文晩期と弥生時代—」を開催し、会期中69日間で6,793名の方々にご来館いただきました。

これまでの企画展で縄文時代早期、前期、中期、後期と順番に紹介してきましたが、今回の「縄文時代晩期と弥生時代」がシリーズの最終回となりました。

船橋市では、縄文時代晩期(約3,200年前～約2,500年前)の遺跡が5ヶ所しか発見されておらず、竪穴住居などの遺構は1つもありません。また弥生時代



縄文晩期の土器

に関しても同様に遺構、遺物が少ないため、今回の企画展では、周辺市(我孫子市、野田市、市川市)の資料を併せて展示することで、船橋市の縄文時代晩期から弥生時代がよりわかりやすくなりました。縄文時代と弥生時代の遺物を比較することで見えてくる生活の移り変わり、縄文土器と弥生土器の用途の違いなど、弥生時代を知ること、縄文時代の生活への理解もより一層深まる展示内容となり、お客様からの反響が大きい企画展となりました。

また会期中は、無料観覧日を2日間設け、延べ239名が入館され、そのうち展示解説には34名の参加があり、多くの方々に博物館を知っていただく機会となりました。関連イベントとして、子どもから大人まで楽しめるクイズラリーを開催し、302名のお客様が当館限定のオリジナル缶バッジを持ち帰りました。今後も当館の企画展を楽しみにしててください。



企画展ポスター

飛ノ台史跡公園博物館の出前授業 ～縄文土器の鑑賞～

縄文土器の世界へようこそ! あなたは、どの縄文土器が好きですか?

1 はじめに

飛ノ台史跡公園博物館では、縄文土器という造形物の魅力をより一層感じて欲しいという思いから、「縄文土器の鑑賞を目的とした出前授業」を博学連携の新事業として昨年度から新たに始めました。今回は、行田東小学校4年生を対象に行った授業の内容について紹介します。

2 授業の様子

(1)縄文土器ってなあに?

小学4年生は、まだ歴史の学習をしていないため、縄文時代のことをよく知りません。今から1万年以上も昔の人たちが作った「縄文土器」が一体何なのかわからない子どもたちは、未知との出会いに興味津々です。

「土器」という名前から推測されるのは、土でできた器であるということ。縄文人はどんな器を作ったのかな?

(2)縄文土器との出会い

子どもたちは得体の知れない「縄文土器」というものを、頭の中で自由に想像しています。

そして、いよいよ縄文土器のお披露目です。

「おー!!」子どもたちから感動の声が上がりました。子どもたちが一体どんなものを想像していたのかはわかりませんが、おそらく出てきた縄文土器は、子どもたちの想像を超えたものであったことは間違いありません。

子どもたちは縄文土器を初めて見て、色々な感想を話していました。

(3)鑑賞の視点

縄文土器を鑑賞させるにあたり「形」、「飾り・文様」、「工夫」、「縄文人の思い」の4つの視点を与えました。

土器はどんな形ですか?何かに似ていますか?どんな飾りや文様がありますか?作るときにどんな工夫をしていると思いますか?縄文人はどんな思いを込めて作ったと思いますか?

発問に対して子どもたちはそれぞれが感じたことを順番に発表しました。



縄文土器を見せる前



縄文土器を鑑賞している様子

(4)比較して鑑賞する

A～Dの4つの縄文土器を比較して、一番魅力を感じた土器を選んでみよう。子どもたちには似ているところと違うところを見つけてもらい、鑑賞させました。

〈子ども〉AとBの縄文土器は形が似ているけど、Aの把手には穴が空いているよ。文様の付け方も違うね。Cの土器は文様が真ん中に集まっているよ。同じ文様を繰り返し付けているのは、他の土器と同じだね。Dだけ浅い形の土器だね。文様が他の土器よりも丁寧に付けられている気がするよ。渦巻は何を表しているのかな。

子どもたちは一番お気に入りの縄文土器を選びました。

3 おわりに

令和5年度から始まって計6校で出前授業を実施してきましたが、縄文土器に関心をもって鑑賞する子どもたちの姿を見ると、今後も市内の学校で取り組んでいきたいと強く感じさせられました。

縄文人が精魂込めて作り上げたものだからこそ宿る縄文土器のエネルギーや造形物としての面白さを、多くの人たちに伝えていけるように博物館でも、所蔵土器人気投票などの企画を続けていきたいと思います。



A B C D
紹介した縄文土器 (縄文時代中期)

(井原 三勇士)

船 橋 の 防 空 壕

今年、2025年は終戦から80年になります。市内で近年見つかった身近な戦争の痕跡、防空壕を紹介します。

1. 博物館周辺の防空壕

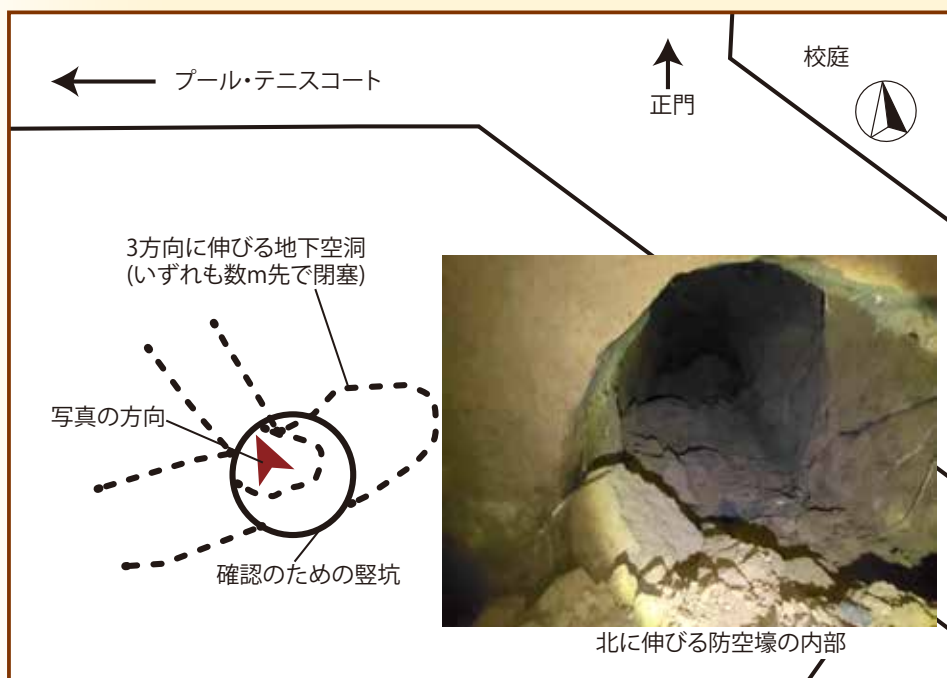
飛ノ台史跡公園博物館と繋がっている海神中学校では、新しい校舎の建設工事が行われており、その工事中に防空壕が見つかりました。防空壕は崖面から掘り込まれる形となっており、壕の高さは2m程度で、壕が3方向に延びていました。複雑で大規模な防空壕であったことが想像されます。博物館に隣接する史跡公園でも、地中探査で高さ2m程度の空間をもつ防空壕の存在がいくつか確認されています。博物館周辺ではその他にも複数の防空壕があったという話があります。

太平洋戦争中、博物館・海神中学校の北側（現在大型商業施設となっているあたり）には軍需工場の日本建鐵があり、飛行機の部品などを生産していました。過去に行われた戦争体験の聞き取りなどでは、徴用されて日本建鐵で従事した方の話が複数出てきます⁽¹⁾。軍需工場を狙った戦闘機からの機銃掃射を受

けたこと、防空壕に逃げ込んだことなどが、当事者の目線で記録されています。軍需工場を稼働させるため多くの人が集められ、周辺に集中して壕が掘られていた様子がうかがえます。

戦争中の防空壕は一般的には個人の家に備えるものだったようです。昭和13年10月に行われた国民防空展覧会の要覧では、家庭に造るべき防空壕について図と注意点が示されています⁽²⁾。船橋市内では昭和14年10月6日の東京日日新聞に「県下で初めて 船橋に家庭用防空壕 寝室其他ラジオも設備」という記事⁽³⁾があり、模範的な防空壕は見習うべきものとされていたことがわかります。

博物館周辺に造られた防空壕は軍需工場だった日本建鐵とともに、周辺の小学校の記念誌などでも地域の戦争の歴史として語られ⁽⁴⁾、戦争を体験していない私達にも、今回のように姿を現した時など、強く印象に残ります。今回見つかった防空壕からは昭和40年代と思われる牛乳瓶が見つかったことから、戦争が終わった後も崖に口を開いていた防空壕は子どもの遊び場などになっていたのかもしれない。



海神中学校で見つかった防空壕

2. 戦後に造られた防空壕

ほとんどの防空壕は太平洋戦争中に造られたものですが、市内ではそれ以後に造られた防空壕も見つかっています。

宮本6丁目で見つかった防空壕はコンクリートで造られ、ゆるやかな斜面を利用し最も深いところで4m程度、長さは8m以上ある大型の壕です。内部の居住スペースは1.9mの高さがあり、排気筒を持ち、爆風を避ける構造になっていました。

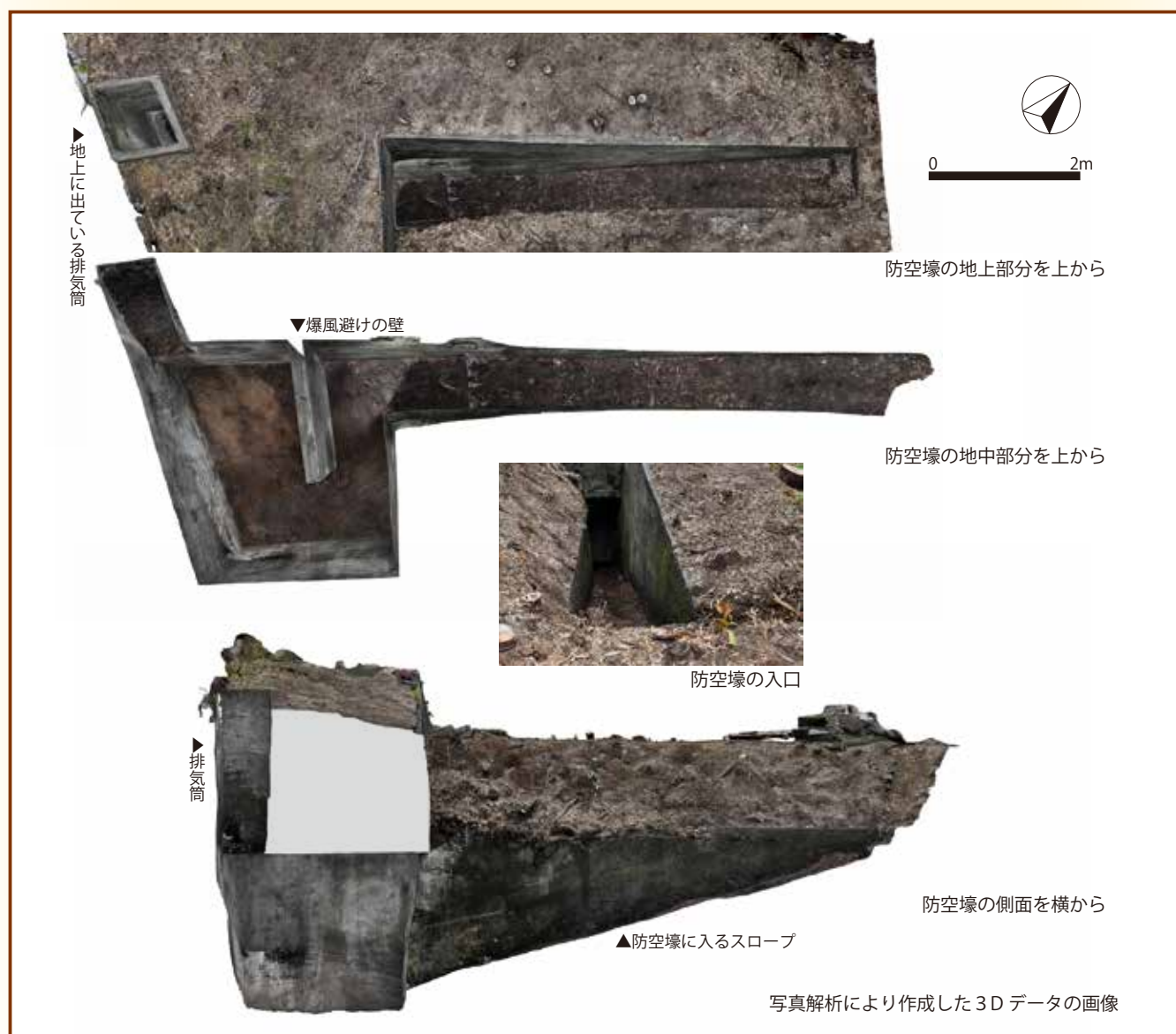
この防空壕は旧所有者の関係者からの聞き取りでは、昭和28年頃造られたもので、昭和25年に始まった朝鮮戦争に備えた防空壕であったことがわかりました。朝鮮戦争は昭和28年7月に休戦協定が結ばれますので、必要とされる事態は起こらなかったのですが、当時、鎌ケ谷市・柏市に跨る白井基地（現在の下総航空基地）はアメリカ軍が利用しており、千葉県にも防空演習の予報が出ていたことがわかっています⁽⁵⁾。戦争の記憶もまだ生々しい時期の危機感が伝わってくる施設です。

終戦80年を迎え、私たちの平和な暮らしが長く続くことを願ってやみません。

注

- (1) 『資料館だより』第87号 特集 船橋の空襲の記憶 2006年、『聞き書き いま思い出す 船橋の戦前・戦後』2014年
- (2) 『国民防空の栞：内務省主催国民防空展览会要覧』1938年 P.49 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1880702>
- (3) 『船橋市史 史料編8』1996年 P.449
- (4) 『つかだ』塚田小学校創立百周年記念誌 1989年 P.74-77
- (5) 大内 照雄 2022「朝鮮戦争下の灯火管制 占領 一日米安保体制と憲法のはざままで」『立命館大学国際平和ミュージアム 紀要』23

(狩野美那子・植木雅博(文化課)・鈴木健太(文化課))



宮本6丁目でみつかった朝鮮戦争時の防空壕

くらしの道具紹介

～ちょっと昔の冬支度～

令和7年1月18日から3月23日まで、郷土資料館では企画展「くらしの道具展—道具が語るくらしの歴史—」を開催し、船橋市域で実際に使用されていた昔の生活道具の展示を行いました。今回は、スペースの関係で展示しきれなかった道具のうち、暖房器具に焦点を当ててご紹介します。

◆ 住宅事情の今昔

現代の我々は、寒い冬でも屋内で快適に過ごすことができます。これはエアコンやヒーター等の暖房器具の進化や、断熱効果の高い建築材の開発が進んだこと、密閉率が上がった住宅や建物が一般化したことなどが主な要因です。

しかし、昭和30年代頃までの住宅や建物は隙間が多く、外気温の影響を受けやすかったため、部屋全体を暖め、保温することが難しい構造でした。このことから、当時の家庭用暖房器具は部屋等の空間ではなく、住人自身を暖めることに主眼を置いていました。

また、昭和20～40年代は一般家庭におけるエネルギー供給の転換期でもありました。薪や炭などの燃料が家庭の生活から姿を消し、主に電気を使用した道具を用いる生活スタイルが確立していったのがこの頃です。「三種の神器」と呼ばれた洗濯機、冷蔵庫、テレビの普及が進んだ時代、たとえばイメージがしやすいと思います。

以下に紹介する道具は、生活様式の変化によって家庭から姿を消したものの、形を変えながら現在も使われているもの、今なお愛用されているものです。

◆ 長火鉢(ながひばち)

右上の写真は、船橋市内の民家で実際に使用されていた長火鉢です。時代劇などでもお馴染みですね。

長火鉢とは火鉢の一種で、屋内で炭火を使うことで暖を取る、お湯を沸かすなどの機能を持った道具です。江戸時代に登場し、住宅の茶の間などで主に使用されました。

火鉢は一般的に陶製の壺型が主流ですが、長火鉢



長 火 鉢

は木製のため、銅板を貼った灰入れに灰を入れることで耐熱・防火の対策が施されています。また金属製の湯沸かしである「銅壺」や、鉄瓶や網などを置きやすくする「五徳」などが設置されています。

また、この写真の長火鉢は「関東火鉢」に分類されます。火鉢の右端に「猫板」といわれる茶碗等を乗せる板が据えられ、その下に乾物や湿気に弱いものを入れる引出しがついているのが一般的な特徴です。

これに対し、「関西火鉢」もあり、こちらは火鉢の縁に広い縁板が張られた形状が特徴です。

火鉢は、暖房器具としては、単体で部屋全体を暖めるほどの熱量は無く、身体の前面を暖めるのが限界だったと言われています。その反面、お湯を沸かせる座卓という使い方ができたことから、インテリアとしても一定の需要があったとされています。

茶の間の中心で幅をきかせていた長火鉢ですが、昭和40年代頃に一般家庭から徐々に姿を消し、現在ではほぼ見ることはありません。これはストーブやヒーター等の暖房器具の進化もありますが、炭を使用していたことが大きな要因として挙げられます。

炭火は取扱いに注意が必要で、火災はもとより、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険性が高くなることから、密閉率の高い現代の住宅では扱いづらくなっていったのです。

隙間風が入るなど、常に換気が行われていた従来の住宅だからこそ、長火鉢は愛用されていたと言えるでしょう。

◆ 炬燵(こたつ)



炬 燵

炬燵は、瓦製の火入れの中に炭火を置き、やぐら状の木枠の中に入れ、上から布団を掛けたところに手足を入れて暖を取るものです。写真の形状のものは、櫓炬燵とも呼ばれます。

この瓦製の入れ物は「行火^{あんか}」という同様の使い方をする道具とよく混同されますが、ここでは木枠の中に納める形状のものを炬燵と呼びます。

先ほどの長火鉢は一人ないし二人ほどが暖を取るものですが、炬燵は木枠と掛け布団の大きさによっては複数人が同時に暖を取ることができます。

また、炬燵の形状は時代が進むに連れて、布団の上に天板を載せることで座卓のような使い方をすることも可能になりました。



こたつを囲んだ風景(昭和42年頃)

この炬燵も、長火鉢と同じく炭火を使用していたため、次第に姿を消していきます。しかし、家族などの複数人が一度に暖を取り、また寛ぐことができるという利便性は大きかったのでしょう。

機能はそのまま電気で熱を発生させる「電気こたつ」が登場し、現在でも一般住宅で使用されています。

◆ 湯たんぽ(ゆたんぽ)

寒い冬の夜、床に就く人々の足元を温めた道具の一つに「湯たんぽ」があります。



湯 た ん ぽ

写真の湯たんぽは陶器製のものです。製造された時代によって、金属製やゴム製、プラスチック製など、様々な素材で作られています。

湯たんぽは、お湯を使用した暖房器具です。容器にお湯を入れ、布に包んで布団の足元に置いて使用しました。布団の中に置いても水漏れしないための工夫が栓の部分に施されています。

容器内のお湯は時間と共に冷めていきますが、体温によって一定の温度が保たれるため一晩暖かく過ごすことができました。また、朝目覚めたときに湯たんぽの中の水を洗面器にかけ、ぬるま湯として洗面に使用するという使い方もあったそうです。

実際に筆者が市販のプラスチック製湯たんぽを自宅で使用したところ、朝まで温かい状態を保つことができました。

現在では保温性の高い部屋や布団、電気毛布等の暖房器具の発達により、昔ほど利用されなくなった印象があります。しかし、その自然な温かさから愛好者は多く、現在でも引き続き製造、使用されています。また、一定温度に保温するバッテリー方式の湯たんぽも販売されています。

今回は昔の生活道具から、三つの道具をご紹介しました。地球温暖化が叫ばれる昨今ですが、それでも人にとって冬は寒いものです。

このような道具や、昔の人の寒さ対策を通して、人がどうやって暖かさを求めていたか、そして現代の我々が何気なく快適に生活していることのありがたさを考える機会になれば幸いです。

参考文献：工藤員功(編)、岩井宏實(監修)

『絵引 民具の事典』(河出書房新社、2008年)

(小澤 重和)

インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。

※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転台を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和7年9月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
7月19日(土)～9月15日(月)	企画展「船橋のこどもたち」(仮)	3階第2展示室
7月24日(木)	地域史講座 共催：中央公民館	中央公民館 (船橋市本町 2-2-5)
7月～8月(予定)	企画展「六大学野球100周年」(仮)	吉澤野球博物館資料展示室 (船橋アリーナ)

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、土曜日・日曜日に有料ワークショップを実施しています。

【令和7年9月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
開催中～5月6日(火)	第2回とびはく所蔵土器人気投票	1階、3階展示室
4月26日(土)～7月6日(日)	縄文ラボ	1階ギャラリー
7月20日(日)～8月31日(日)	第24回縄文コンテンポラリー展	史跡公園、1階～3階展示室
9月(予定)	とびはく探訪会	史跡公園、1階～3階展示室
9月21日(日)・28日(日)	縄文大学	船橋市民文化創造館(きららホール) 船橋市本町 1-3-1 フェイスビル6階

協力：
船橋市華道連盟



「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
住 所 船橋市薬円台4-25-19
電 話 047-465-9680
F A X 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入 館 料 一般110円(団体20名以上70円)
児童生徒50円(団体20名以上30円)
市内在住中学生以下 無料
住 所 船橋市海神4-27-2
電 話 047-495-1325
F A X 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

※4/1から 新京成→京成松戸線 船橋新京成バス・ちばレインボース→京成バス千葉ウエスト(山手ループ線)・京成バス千葉セントラルに名称が変わります。

交通案内

新京成線 習志野駅下車徒歩10分
JR 津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボースで
「郷土資料館」下車徒歩2分

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩8分
京成本線 海神駅下車徒歩15分
東葉高速線 東海神駅下車徒歩12分
船橋新京成バス
JR 船橋駅北口から山手ループ線
「海神中学校前」下車徒歩1分



ご利用案内・交通案内

休館日カレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

■ は郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変わる場合があります。

発行：令和7年(2025)3月31日 船橋市郷土資料館・船橋市飛ノ台史跡公園博物館
表紙写真：神保君雄氏撮影